

装丁者のひとりごと

老人ホーム寸拙 旅路の果ての詩人たち 25

オルゴールの四季

文 石原雅彦 denofnote@gmail.com

特養ホームで暮らす義母の枕元で聴かせる手回しオルゴール、その12月・1月版ができてCDには「第1シリーズ完結」とある。欲しいと言ってくださる方にお送りしてきたが、発送時に同封する手紙には

「今年・2017年には、夫の協力を得て、隔月1枚、季節を追って6枚のCDを作り、身近な人々に聴いていただき、満ち足りた一年になりました。『小品集第1シリーズ』6枚の収録曲は、合わせて147曲になりました。感想のメールや励ましのお便りを寄せてくださった皆さま、どうもありがとうございました」と書き添えられている。

入所後の義母は、次第に認知能力の衰えが深まり、起き上がることができなくなって身体拘縮が進み、会話もなくなり、虚ろな目で宙を見つめたままになった。身体をさすりながら話しかけても反応のない母親との間の静寂を埋めるため、妻は小さなオルゴールを鳴らしており、特養ホーム最寄駅の東急ハンズで買ったそれは「カノン」だった。やがて物足りなくなり、注



Bricolage

【編集後記】

久々に、入浴介護の特集だ。日常的に自己肯定感を得られるのが日本人のお風呂。それが作業になり「人体」として扱われるのでは、せつかくのプラスをマイナスにしてしまうことだ。具体的にをモットーに編集した。

もっと具体的には、ぜひ、それぞれの介護現場へ！
(三好)

【次号】

vol.253 春号 (2018年3月15日号)

特集 介護と農業

文して取り寄せたのが母親の好きな「ローレライ」であり、そしてふとしたきっかけで20弁手回し紙ロール式オルゴールに出会うことになる。



せつかく自分が思う通りのオルゴールが作れるようになったので母親に聴かせてやったらいいと思ひ、デジタルレコーダーでPCM録音し、MP3のオーディオファイルにし、小さなスピーカー式MP3プレーヤーに入れてやったら、母親の枕元で聴かせるようになった。そうしたら全く無反応だった義母がオルゴールの音を聴きながら「ふうふう…」と唸ったり、「懐かしい曲でしょう」と話しかけるとこっくり頷いたりする。

インターネット検索するといくつも見つかる小

型MP3プレーヤーで、いま気に入ってしまったのは Anker Sound Core mini という製品で、2017年12



月現在2499円(送料込み)でAmazonから購入できる。なかなか音質も良くて頑丈にできている。特養ホームに置きっぱなしにしても電池がかなりもつ。それに隔月更新のオルゴールをコピーしたマイクロSDカードを入れ、ベッドで寝ている義母の枕元に転がして聴かせている。周りにいる家族にとってはかすかな音でも、義母にとっては耳元で枕が歌い出したような臨場感かもしれない。

呆れるほど小さな変化を喜ぶ身内しか気づかない反応かもしれないけれど、それは家族にとって大きな喜びとなる。最近また嬉しい知らせがあった。勝手にCDを送りつけている女性編集者宅では、送られてきたオルゴールのCDをかけるたびに、飼い猫がスピーカーの上に乗ってじっと聴いているという。妻が「猫も反応してくれた」と大喜びしていた。

